東海道風景圖會

東海道風景図会
一立斎広重筆
松林堂梓

一むらの
うらは
きりしけの
かんだ
ゆき

秋葉大権現本堂ハ観世音なり
別当秋葉山ハ曹洞宗
鎮守ハ三尺坊と唱ふる大天狗
にて火災を除給ふとぞ
あけてやつしるし

秋葉山坂道

袋井

掛川の西十町許山きハに岩井村
と云る一村あり むかし源頼朝
鶴をはなち給ひし所あり とて
此ひつき文上の原といへるハ
是は見付のかたへよる
義貞宗義との古戦
場なり
鸛（こうの）塚さ
四十七冩

中勢 親生

このりけるこかめく
椿のそちまきて
おめハねこそちまに
世はとらてくるうれ

見付
天龍川ハ見付より上
四里ほどの所にて川巾
十丁斗ニ一せ二せの二すぢ
となる是を大天龍小天
龍といふ信州諏訪湖より
出て東ハ海へそそぐ
天龍川
舟渡の図

濱松
東海
東海

舞坂

今切風景

此所昔ハ陸地なりしが後土御門院明応八年六月十日大地震して山奥より螺貝ハおほくぬけ出其跡忽海となりぬれハより当所に風波あらく渡船の難義甚しかりしを宝永七年公(おおやけ)の命によりて今切の口に数百万の杭をうちて逆浪をふせぎちを地築をなさせて渡海をやすくのふあはしわあかあり

由縁斎貞柳

螺貝の
はてし
此の
しるを
知らねとも
今きれハ
よき
渡手
あり
ける

濱名の橋ハ舞坂驛の
西にあり當地の名物納豆ハ
大福寺にあり

古今集　[illegible]

高師山夕こえ
くれてふもとなる
濱名の橋を
月に見るかな

荒井

堀川百首　永縁

今はゝ
橋柱さへ
くちはてり
濱名ぞ名のみ
きこゆるかな

汐見坂ゝ子のあれば
富士にもまさるうみ
見わたしを船灘を
眼の下にみわたらぬかど
呼ぶ声のうちもなき路京
たより

波浪一天
俱一色
望中無島
又無山
羅山子

白須賀

汐見坂眺望

二川

驛の東に岩屋観音の山みゆる火打坂より入ていまきれのけ越に出るなり

このやまの
はなより
雲雀の
高あがりそ

さるがばゝ立場

名ぶつ
柏餅

吉田
豊川
吉田の橋
長サ百廿間
豊川の波

三州鳳来寺
行者帰
鳳来寺ハ常葉ゟ来之世に峰の名しと云
東山の峰より東の方大地へ出る道ありて苦
役の行者登山の時岩路さかしくて登り
がたく岩道より剣り利修仙人に逢ひ坂に
行者へのつりとりかよし
又素近の回者一里の近道なれバ行や死る者多き
是より登る者ハ皆甲ハ荷物杖笠のくびひもを上よ
なげ落し身程手ありて岩角にすがりつゝ辺て拝む
今世俗行者がへりといひバ行やまりなりんか

御油
赤坂
赤坂駅
ごゆ駅

藤川

後撰集

天のかはら 雲井よりなかれ こゆるやまぬか 藤のえ ゆかん なからましかは

六帖

水鳥のうきて ねはよそにかは 宮路の池に 年ふる

[illegible]

岡崎
矢矧川
やはぎのはし
長サ
二百八間

池鯉鮒

当所諸方明神の
池に鯉鮒多く
ゆゑに名とす当所の
名たかき祭礼
毎年四月二十五日
あり日月より
五月節句まで
馬市あり

八ッ橋杜若古蹟

在原業平朝臣

から衣きつゝ
なれにし
つましあれは
はるはるきぬる
たびをしぞおもふ

かくよみ玉ひしも
この所とぞ

鳴海
正三位季能

宮

此所より桑名へ七里の
渡海あり南ハより
名古屋へ五十町あり
熱田の社ハ尊き由緒ふ
諸の名を宮とよふ
和泉かくらの神社ハ
素盞嗚尊の在り
津島牛頭天王も
三里許なり

桑名へハ
綱おろし
宮の
しほれ
うる

熱田濱の鳥居

松風の里

桑名

間遠の渡

海道ニ濱の地蔵
といへるを安置し
又蛤の社あり
名物やき蛤なり

西行法師

いまそしる
ふたみの浦ハ
はまくりを
かひあはせとて
掩ふなりけり

杖突坂
名物まんぢう
四日市
日永村追分
参宮道
采女川板橋
五十五間

風雅集
天か代の
あまりしほ
ながれも
宮川の
岸ね
松むろ
いふち
かけらも
後京極

宮川の渡
山田法町
入口
是より外宮迄
三十町なり

相の山

芭蕉

何の樹の花とはしらす匂ひかな

参宮のあひだにあるゆゑにあひの山とや名つくあひは尾部坂やまも一里

お杉お玉

匡房
君の代ハ久しかるへし
わたらひや五十鈴の川の
なかれたえせて
宇治橋
五十鈴川
又清裳濯川とも云
内宮
五十鈴川

朝熊山
峠之茶屋

二見の浦

遠浦縹渺として万株の松烟に和し孤島峨々として百尺の巌月に嵎つ実にさびしき絶景の地なり

拾遺愚草　　定家

はるかなるふたみの
浦はこゝかへて
神風きよき
夜の秋の月

春
寺の名や
石もあたゝき
山も
雲霞
先せ残
雪ハきえて
山も花と
なれ
初さくら
鬼貫

石薬師

街道の西の方に
堂舎ありて
本尊石佛にて
霊験あらたなる
諸の尊とする
よぐ里

庄野

日本武尊の陵
白鳥塚ハ庄野
石やくしの間ゟ
宮村にあり

此所ハ庄野
俵とて小さき俵
を売茶屋ありて
だのみ焼米を入
甲ふらふるなりて
ひさくあり泉川
佐野七年間

白鳥塚

亀山

関
古法眼
筆捨山

坂の下

俊成

降るまゝに
いたくも水まさる哉
すゞかの川
八十瀬もしらぬ
五月雨の比

坂の下より東の方に
鈴鹿明神の社あり
西の方の口を蟹が坂と
いふ名物なりあめをひさぐ
田村丸が鬼賊を討し
も此山なり

土山
田村川

水口

山の端峰ひろげけり雉子の声　惟然

此松山家松ハ海岸に風子松村の山中にいへ此山ハ松樹繁く実あり葉細く艶ありて四時に変色なく株ハ数十本わかれて繁茂なり是ハ雄松株ハ雌松なり此類多く人知て賞嘆の景色にて甚なり

一尺のもちひの本や松のしげ　佶佳

草津

名物うばが餅あり
追分より矢橋へは
こゝより舟場まで
一里八町
彼六玉川の内なる
野路の玉川又
めぢは篠原など
いへる名所こゝ等は
ほとりなり

一貞
薮の中
夕日の
光る
あらち
られ

草津駅

草津川

瀬田の橋
石山寺

比良
カタ田
粟津
辛嵜
琵琶湖風景

大津

三井の末院正法寺山上より大津の町琵琶湖の風景眼下に見わたし晴天には湖中の島竹生島もあらはにみゆる亦仲秋の月を賞する佳景の勝地なり

ありあけに峰や湖水のさゝみあり　文学

行春のや舟にかはして　恒峯
時秀

三井寺

順礼観音

正法寺

三上山

大津の町

京三條
大橋
蒲團着て
ねたる
すがたや
東山
嵐雪

跋詞

馬士は聲高にしらいふとも見るもきゝも法なし
嚊新しみなんで出女の鼻低しといふとも見れば又よし
讃ば葦ひなかれ猿を樂しひと料理はなし
洒落は猥口なる膝栗毛と序文もかゝんなし
琴責か重患なる傷廣重大人はいはなあり
東海道圖會の寫生は画未名勝志には

さくらの
影は中は
居浩まる
ゆく室人に
いのくる譜の女
柳下亭
種員

一立齋

艸筆画譜 初編 二編 歌川廣重画

東海道風景図会 前 後 全二冊

柳亭種員記

彫工 本町 吉田席吉

嘉永四亥年初春刊行

東都書林 松林堂 通油町 藤岡屋慶次郎

三都書林

京 吉野屋勘兵衛
大坂 敦賀屋九兵衛
同 綿屋喜兵衛
東都 須原屋茂兵衛
同 伊八
同 山城屋佐兵衛
同 政吉
同 出雲寺萬次郎
同 和泉屋市兵衛
同 山口屋藤兵衛
同 森屋治郎兵衛
同 丁子屋平兵衛
同 山崎屋清七
同 通油町 藤岡屋慶次郎版